

VOICE

Volunteers Of International Communication & Exchange



VOL.60

発行日 2014年9月30日
発行 熊本県国際協会
〒862-8570
熊本市中央区水前寺6丁目18-1
熊本県国際課内
TEL 096-385-4488
FAX 096-277-7005
E-mail kuma-koku@cup.ocn.ne.jp
ホームページ http://www.kuma-koku.jp/

1 国際協会活動報告

- 平成 26 年度総会について

2 人物・会員団体紹介

- ミャンマー留学生 Nu Tawng San さん
- 文化交流ひとすじ—熊本むくげの会

3 トピックス

- ドイツ人を受け入れて（ホームステイ）—ザ・フレンドシップフォース・オブ・熊本
- フィリピン台風被災地支援ワークキャンプ参加報告—熊本 YMCA
- ギリシャで清和文楽人形芝居「雪おんな」の公演—熊本アイルランド協会
- バーベキューパーティーを開催しました—NPO 法人 熊本インドネシア友好協会
- 第 17 回植木町世界の夜明け調査団～ローム派遣～
—植木町国際交流協会
- 第 22 回「アフリカの子どもの日」in Kumamoto
—熊本県ユニセフ協会
- 一井正典「青雲の志」育成事業—人吉市
- 姉妹都市・ヘイスティングズ市との交流—大津町

4 お知らせ

- 中国北海市との交流について—八代市
- 第 21 回熊本国際交流祭典の開催について
- 国際相談コーナーについて

5 会員団体行事予定

内容

※
Περιεχόμενα

(※内容のギリシャ語です)



第 21 回熊本国際交流祭典フライヤー

▶ 平成26年度総会について

平成26年度熊本県国際協会総会が、去る4月21日に熊本市国際交流会館で開催されました。当日は、会員63団体(うち委任状27団体)の出席のもと、平成25年度事業実績・収支決算の報告及び本年度の事業計画・収支予算の審議が行われ、全ての議案が承認されました。併せて事務局から、平成25年度の国際相談コーナーの実績、肥後っ子わくわく地球教室講師派遣実績、フィリピン中部における台風被害に対する災害義援金の募集結果等について報告しました。また、一般財団法人自治体国際化協会シンガポール事務所所長補佐の岡田理花氏に、「アジアのショーケースーシンガポールー」という演題で講演いただき、自然資源に限りのあるシンガポールの国策や食文化など興味深い話をいただきました。講演後の質疑では、参加者から「シンガポールから日本、熊本が学べることは?」、「農業は盛んなのか?」、「軍隊はあるのか?」などの質問が寄せられ、活発な意見交換が行われました。

協会事務局



総会の様子



講演会の様子

熊本県国際協会役員名簿

(任期: 2013年5月8日~2015年5月7日)

役職	所属団体・役職	氏名
会長	熊本県知事	蒲島 郁夫
副会長	熊本市長	幸山 政史
副会長	熊本大学学長	谷口 功
相談役	熊本むくげの会	筑紫 汎三
理事長	熊本県協力隊を育てる会	山部 征三
副理事長	熊本アイランド協会	藤門 豊明
副理事長	MATE インターナショナル倶楽部	山下公喜子
理事	(一社)熊本青年会議所	飯田 憲幸
理事	熊本市北部国際青年交流会	上村 勝代
理事	東海大学九州キャンパス	太田 民夫
理事	(公財)熊本YMCA	神保 勝己
理事	熊本日伯協会	杉光 定則
理事	崇城大学	寺本 祐司
理事	熊本むくげの会	毛利 秀士
理事	熊本県国際農友会	出田 正明
理事	熊本大学	伊原 博隆
理事	熊本日加協会	大木 歌子
理事	熊本県立大学	津曲 隆
理事	熊本県日韓親善協会	松崎 幸子
理事	熊本県国際課	磯田 淳
監事	人吉市国際交流協会	赤山 武興
監事	熊本学園大学	カーク・マスデン

▶ ミャンマー留学生Nu Tawng Sanさん

熊本YMCA学院日本語科在籍

私はNu Tawng Sanといいます。23歳です。ミャンマーのカチン州のモガウンという小さな町で育ちました。カチン州には、HIV(エイズ)で苦しんでいる人々や両親を亡くした子どもたちがたくさんいます。様々な団体がHIV患者を支援している中、現地のモガウンYMCAでは、熊本YMCAの協力を受けてエイズ孤児の支援をしています。全ての子どもたちを支援することは難しい状況です。

私の将来の目標は、ミャンマーの子どもたちに安全と健康的な生活を提供し、子どもたちが教育を受けるチャンスを作り出すことです。そのため、様々なことを日本で学びたいと願っていました。この願いは熊本YMCAと熊本ロータリークラブの奨学金によって叶えられました。

今年の3月から、熊本YMCA学院日本語科で、日本語を始め、文化、習慣などを勉強しています。

夏休みには、YMCAの子どもたちのキャンプに同行させてもらい、県立あしきた青少年の家に行き、生まれて初めて海を見て感動しました。キャンプでは子どもたちの安全を守ることや、愛情を持って関わることの大切さを学びました。また、小国町では小中学生と楽しい交流もできました。

これからも沢山の経験をして、来年3月にはミャンマーに帰ってエイズ孤児の支援に努力していきたいと思っています。熊本での経験したこと、学んだことを子どもたちのために生かしていきたいです。



ホストファミリーとの夏祭りを経験



日本語学校スピーチ大会3位

▶ 文化交流ひとすじ

熊本むくげの会

熊本むくげの会の発会は1976年6月13日。この2014年8月20日の月例会は、第456回になった。38年間、よくも続けて来たと思う。全くみんなの「善隣友好の善意」である。

発会の趣旨が「文化交流一本で手を繋ごう。政治は、時の都合で、良い時もあれば、うまくいかない時もある」と、政治はずしで始めた。これが正解であったことは、多くのご理解を得たと思う。

456回のなかには、山ほどの実績があるが、第1回の発会メンバーが今では2人になった。14名でスタートしたが、いまは、

名誉会長の沢田一精先生(当時県知事)と三代目会長の私(筑紫汎三)だけである。この私が、むくげの会にとって、一番の幸せと誇りにするのは、93歳のご高齢の沢田先生が、月例会にご出席いただき、乾杯のご発声を聞ける。韓国忠清南道と熊本県の友好橋渡しをされたのは、沢田先生である。会の至宝である。いつまでもお元気を願いたい。

熊本むくげの会 会長 筑紫汎三



第6回日韓文化交流会にて



ワールドカップテコンドー祝賀会にて

VOICE 3 トピックス

ドイツ人を受け入れて（ホームステイ）

ザ・フレンドシップフォース・オブ・熊本

私たちの会は少し珍しい大人のホームステイで国際交流をしています。今回はドイツの方との交流です。70歳代のご夫婦のほか親子、友達など13名が2014年3月に来熊され7泊8日の日程で、日本の文化に触れられました。

来熊の前に京都、奈良を旅行され、その後新幹線で熊本に到着です。ホームまで会長、役員がお迎えに行き、ホストファミリーはロビーでそれぞれお相手の名前を書いたプラカードを手に、これからどんなドラマが繰り広げられるのかとワクワクしながら待ちました。

対面後それぞれの家庭へ帰り楽しい交流が始まりました。

今回の方は温泉に興味をお持ちでしたので、温泉で裸のお付き合いもありました。これは本当に喜んでいただき、その時撮った写真をドイツに送って下さいと言われました。

食事の際、ナイフ、フォーク、スプーンも用意しましたが、必ずお箸で食べられました。しかも使い方が日本人顔負けの上手さで、とても驚かされました。聞いたところ、ドイツで練習してきたとのこと。

ドイツ帰国後にホームステイ中の思い出を一冊のフォトブックにして送ってこられた方もいらっしゃいました。それを見せていただきましたが、本当に感謝されたのだなと思いき嬉しく思いました。

受入代表 入江信子



熊本駅で対面後の集合写真



阿蘇火口前にて

フィリピン台風被災地支援ワークキャンプ参加報告

熊本YMCA

2014年5月11日～19日、フィリピン台風30号被災地支援ワークキャンプに参加しました。このキャンプはアジア・太平洋YMCA同盟、フィリピンYMCA同盟、イロイロYMCAの主催で行われたもので、昨年11月、台風で被害を受けたパナイ島イロイロ州タンバリザ地域において、地域住民と結束を図りながら復興の第一歩を進めることを目的としています。

ワークは、子どもたちの教育環境が整い、楽しく学校生活を送れるようにと願いながら、学校の修復・再建作業を行いました。現地にはもともと電気・水道・ガスはなく、

さらには生活必需品さえも不足していました。暑さで体調を崩した仲間も現れ、扇子を使ってあおんだり、トイレ用の水を交代でくみに行ったり、2人用のマットに3人で就寝したりして過ごしました。島ではお互いが助け合わなければ生活できないことを実感し、絆が生まれました。

島の復興を一番に考えて参加したキャンプでしたが、終わってみると自分が与えたものよりも得たものの多さに気づかされました。これから先、自分に何ができるのかを考えながらこの経験を活かしていきたいです。

崇城大学薬学部6年生 YMCA 国際ユースボランティア 川畑友紀



ワークキャンプの様子



現地での活動の様子

ギリシャで清和文楽人形芝居「雪おんな」の公演

熊本アイランド協会

熊本アイランド協会では、国際交流事業の一環として、2014年7月6日にラフカディオ・ハーン（小泉八雲）生誕の地ギリシャ レフカダ島で行われたラフカディオ・ハーン没後110年記念イベントで、清和文楽人形芝居「雪おんな」の公演を行いました。

ハーンは明治23年（1890）に来日し、松江に1年、翌年から熊本に3年間ほど滞在し第五高等学校で英語とラテン語を教えています。「雪おんな」は、ハーン の作品「怪談」をもとに作成された人形芝居です。

レフカダ島では英語はほとんど通じません。言葉の不自由を感じながらの公演で少し不安でしたが、500席以上の会場は立ち見が出るほど観客であふれていました。いよいよ舞台の開幕です。暗い舞台にしんしんと雪が舞います。ライトに浮かび上がる雪は幻想的で観客を一気に物語に引き込みます。1幕・2幕・3幕と最後まで舞台にくぎ付けでした。芝居が終わると全

員立ち上がりブラボーの声。出演者も関係者もほっとした一瞬です。

終演後の人形交流会では、沢山の観客が集まり、交流の輪が広がりました。

ハーンの人生の始まりでもあるギリシャで、清和文楽を通じ日本の古典芸能の魅力を楽しんでもらえたことは、本当に素晴らしいことだと感じました。

熊本アイランド協会 事務局長 笹原元子



公演舞台の様子



終演後の人形交流会

バーベキューパーティー ～食バザーの成功を祝って～

NPO法人熊本インドネシア友好協会(KIFA)

2014年5月末、熊本大学の近くの公園で、バーベキューパーティーを行いました。このパーティーは、今年4月に熊本県立劇場で上演されたインドネシアの大学生達の劇団 en 塾のミュージカル「吾輩はニャンコである」と共に開催した、インドネシアの食バザーの成功とその労をねぎらうために開いたものです。

開催にあたり、食バザーのリーダーだった中川氏が、人吉の食品会社からハラル認証ビーフを取り寄せてくださいました。インドネシアでは、バーベキューの時に野菜は焼かずサラダで食べるため、私たち留学生はバーベキュー

で焼いた野菜を食べるという経験を初めてしました。また、当日は、インドネシアの串刺しの焼き鳥「サテ」がピーナツソースと共にふるまわれ、日本人の参加者にとっても、初めての経験だったようです。

パーティーにはインドネシア留学生が21名、日本人が6名参加し、和やかな雰囲気参加者間の交流を深めることができ、とても楽しいものになりました。

KIFA インドネシア留学生代表 ファイザル



食バザーの様子



バーベキューと文化交流を楽しむ

第17回 植木町世界の夜明け調査団～ローム派遣～

植木町国際交流協会

植木町国際交流協会では、2014年3月23日から4月3日にかけて、アメリカジョージア州ローム市へ中学生10名とスタッフ3名を派遣する交流事業を行いました。

派遣先のローム市役所で歓迎式典後、8日間のホームステイ開始。学校訪問、施設・名所見学等を通して、友好を深めました。29日には、International Festivalへ参加。空手・弓道・田原坂音頭の披露、おにぎりの出店、習字や折り紙ブース等大変好評でした。

また、今年1月に逝去された前市長のGeorge Pullen氏の長年にわたる派遣交流への貢献を讃えて、記念碑に花を捧げました。



International Festivalへ～お揃いのハッピを着てハイ・チーズ～

帰国後、植木北中3年の田中季君は「英語は好きだが話しかけられなくても上手く返事が出来なかった僕は、相手の話を理解しようと努力した。すると、相手も僕に丁寧にゆっくりと話してくれるようになり相手の話を理解出来るようになった。これからも、忘れないようにしたい。」と、また楠中3年の片山彩羽さんは「アメリカでの活動はすべてが新鮮で楽しかったです。また、失敗を恐れずに英語で会話をすることの楽しさを感じることができ、とても貴重な経験となりました。」とそれぞれ感想を述べました。団員達が、この派遣で学んだことを今後の人生に役立ててくれたらと願っています。

植木町国際交流協会事務局



ローム市庁舎前にて、ローム市(議)長と一緒に

第22回「アフリカの子どもの日」in Kumamoto

熊本県ユニセフ協会

2014年7月11日～13日くまもと県民交流館パレアを中心に第22回「アフリカの子どもの日」in Kumamotoを開催しました。本行事は、次世代を担うアフリカの若者と熊本の若者がお互いの文化や歴史を学び、理解を深め合い、人と人のネットワークを築くための機会として、熊本県ユニセフ協会設立当初から、毎年開催しているものです。

今回はブルキナファソ駐日大使夫妻をお迎えし、全国から81人のアフリカからの留学生と熊本県内の大学・高校生等320人が、お互いをより理解し、「～共に生きるために～」のテーマのもと、11の分科会に分かれ学び合い交流を深めました。アフリカ料理を食し、ジェンベの演奏では会場が熱気に包まれ、アフリカ一色で感動いっぱいの3日間となりました。

熊本県ユニセフ協会事務局



交流会にて



熊本城の前にて



みんなでジェンベ(アフリカ太鼓)を演奏

一井正典「青雲の志」育成事業

人吉市

人吉市内の高校生7名が2014年3月25日から30日に、カリフォルニア州を訪問しました。この事業は、一井正典(いちのい まさつね/人吉市出身:明治初期にアメリカに渡航、歯科医学を学び、帰国後は日本の歯科医学界の発展に寄与)氏の足跡をたどることによりその志を学び、併せて、サンノゼ州立大学、ロスガトス高校、シリコンバレーのIT関連企業等での交流を行いグローバルな人材育成を目指したものです。

IT起業家とのディスカッションでの感想を、参加者の一人は「みるみるうちにみんなの表情が輝いていく。話を聞いて『人生って楽しいんだ』と思った。大きな夢や希望を持った大人たちの話はものすごい刺激になり、視野が一気に広がった。」とレポートに記しています。そして今、彼らは、それぞれの夢に向かって努力の真ただ中です。ロスガトス町と高校での取り組みに刺激を受け、地域学系を目指すもの、IT系を目指すもの、医療系を目指すもの、今後の活躍が大いに期待されます。

人吉市自治振興課



ロスガトス高校にて

姉妹都市・ヘイスティングズ市との交流

大津町

2014年5月下旬に、大津町の姉妹都市・アメリカ合衆国のヘイスティングズ市から10人の市民が、8泊9日で大津町を訪れました。

市民訪問団の方々には皆、大津町民の家でホームステイをし、HONDAの「二輪車製造工場」や大津北中学校での「英語の授業」、国指定重要文化財の「江藤家住宅」を見学したり、ラーメン店や日本のファミリー

レストランでランチしたり、「梅の造花」を作ったりなど、町内で多くの体験を楽しみました。

他にも、熊本市(熊本城や水前寺公園の見学)や、阿蘇(中岳火口の見学や蕎麦打ち体験)、長崎市(長崎原爆資料館や平和公園の見学)なども、大津町滞在中に訪問しました。

今回の市民訪問団には、農業や教育関係の仕事をする人が多く、「塾はどういう所?」や「あの畑では何を作っているの?」など、日本の教育観や農場に対する質問が飛び交っていました。

大津町総合政策課



歓迎レセプションでの集合写真



HONDAでの工場見学

VOICE 4 お知らせ

中国北海市との交流について

八代市

八代市は、1996年3月に中華人民共和国広西壮族自治区の北海市と友好都市関係を提携しました。それ以来、教育・文化・スポーツ・医療・経済などの分野で行政や市民による交流を行っています。

平成26年度は、10月に北海市より「ジュニア友好派遣団」を受け入れる予定です。市内でのホームステイや中学校での授業や給食の体験、交流会を行います。また、八代市からも12月に中学生11名を含む15名の「ジュニア友好派遣団」を編成し、北海市の中学校での交流、ホームステイ等を体験します。

このような交流を通じて、将来を担う子どもたちの国際的友情が育まれ、多文化理解を深める良い機会となるよう願っています。



昨年訪問時の餃子パーティーにて

八代市企画振興部秘書課

第21回熊本国際交流祭典の開催について



来たる11月9日(日)、「第21回熊本国際交流祭典」を開催します。
このイベントは、国際交流や国際協力を行っている県内の民間団体等の日頃の活動を、県民の皆さまに広く知っていただくとともに、国際感覚の醸成などを目的としています。

当日は、各種ステージ披露をはじめ、写真パネル等による各団体の活動紹介や、バザー、着物・煎茶体験などを予定しています。

多くの県民の皆さま、外国人の皆さまのご来場をお待ちしています。



昨年の祭典の様子

- 【日 時】** 2014年11月9日(日)
11:00～16:00
- 【場 所】** 健軍商店街 (ピアクレス)
- 【内 容】** ステージ披露、世界のグルメ、バザー、パネル展示 (国際交流・協力活動など)、着物・煎茶体験コーナー、スタンプラリー、フェイスペインティング等

祭典当日のお手伝いをしていただけるボランティアを募集しています

詳しくは、熊本県国際協会HPをご覧くださいか、事務局までお気軽にお問い合わせください。

■ 熊本県国際協会事務局
TEL:096-385-4488 FAX:096-277-7005
HP : <http://www.kuma-koku.jp/>
E-mail : kuma-koku@cup.ocn.ne.jp

国際相談コーナーについて



熊本県国際協会の国際相談コーナーでは、在住外国人や県民の皆さんなどを対象に、面接、電話、文書による法律、労働、結婚、教育、国際協力、その他生活全般についての相談を受け付けています。

日常のちょっとした困り事や様々な問題に関するご相談、ご質問がありましたら、お気軽にお電話ください。

(対応言語：日本語、英語、中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語 日時：平日 9:00～17:00)

相談・お問合せ先 Tel 096-385-4488 Fax 096-277-7005



会員団体行事予定

(2014年10月～2015年3月)

事業名	開催場所・日時	事業内容	主催・連絡先
タイ里親運動20周年記念 タイ若竹寮フェスティバル	熊本 YMCA (新町) 2014年10月5日(日) 10:00～13:45	北部タイ山岳少数民族の里親運動の20周年を記念して、食による交流を行います。 参加費 1,500円(タイ料理・ドリンク)	(公財) 熊本 YMCA 佐藤万由美 096-353-6397
日本文化体験・熊本城 着物散策	熊本城周辺 2014年10月19日(日) (受付場所: 市民会館崇城大学ホール)	熊本秋のお城祭りにて、着物を着てお城の周りを散策する。	日本現代 和装研究会 小池美代子 096-345-6158 090-1928-9207
日本台湾友好文化交流会	台湾 雲林県 斗六市 ドゥ・アート・スペース 2015年 3月5日(土)～3月9日(土)	日本・台湾の相互理解・草の根交流を目的とした文化交流会	五ツ太鼓 彩流 松本彩童 090-5383-9515

広報誌「VOICE」の編集委員

飯田憲幸 ((一社) 熊本青年会議所)、上村勝代 (熊本市北部国際青年交流会)、太田民夫 (東海大学九州キャンパス)、神保勝己 ((公財) 熊本YMCA)、杉光定則 (熊本日伯協会)、寺本祐司 (崇城大学)、藤門豊明 (熊本アイルランド協会)、毛利秀士 (熊本むくげの会)

●熊本県国際協会事務局 (磯田淳、北田実、西川博、宮崎恵、櫻木俊輔、児玉英吾、川上善久、井手口真帆)